

山形県歯科技工士会会報

H27・12

「第 37 回 山形県歯科医師会・

山形県歯科技工士会共催学術講演会」

尾形 清敏 (中央)

平成 27 年 10 月 25 日 (日) 午前 10 時より、山形県歯科医師会館 4 階大会



議室にて、「第 37 回 山形県歯科医師会・山形県歯科技工士会 共催学術講演会」が開催された。株式会社テクニカルセンター代表取締役の野島正美先生をお招きし「これからの歯科技工士に求められるもの」という演題でご講演いただいた。歯科技工士の日本社会での位置付

けを説明され、歯科技工は製造業ではなく、医療であることを改めて解説していただいた。今は歯科技工士の 48 パーセントが 50 歳以上となり高齢化が進む中、新卒者の離職率が 5 年で 75 パーセントという現状から、今後必ず起こる歯科技工士不足と CAD/CAM 技術の進化による技工作業の機械化はまさに歯科技工業界の変革期にあることを説明された。

野島先生のラボである株式会社テクニカルセンターでは、社内での勉強会や技工物の作り方はマニュアル化するなど新人の育成に努めている。自分の夢は計画して行動すれば実現すること「夢が人生をつくる」を経営理念としており、「社長の道標」などの登上システムにより、若い歯科技工士が夢をもって仕事に打ち込める環境を作り出している。CAD/CAM 設備を積極的に取り入れるこ

とで効率化をはかり、ワンピースフレーム、バイトの狂いにくいコスモシステムで重合、全て除菌して納品など、良い製品を作り提供する工夫は参加した歯科技工士にとって大変参考になったと思われる。

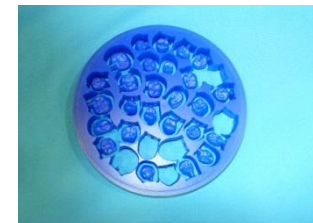
午後には、「CAD/CAM 技工の展望」という演題で、実際に CAD/CAM 機器を導入された方のインタビュー動画を見せていただき、デジタル技工は、実際よりも小さくデザインし、きつめに WAX UP 出来ることや、将来目が見えなくなっても、PC のモニターで拡大し、デザインできるなど様々なメリットがあり、特に効率化により技工離れを防げることを挙げられていた。

そしてテクニカルセンター技術部長の伊藤隆文さんより、実際に会場に CAD/CAM 機器を設置していただき、デモを交えながらの説明があった。

クラウンのデザインでは豊隆、コンタクト、対合との当て具合など全て細かく調整が可能であること、高い精度で模型を読み取り削り出す速さには参加者も驚いていた。

最後に、参加者からの多数の質問に答えていただき終了した。

近い将来、歯科用 CAD/CAM システムが必要になることと、歯科界の新しい技術の可能性として大変有意義な講演会であった。



『村山・中央地区共催学術研修会』

太田 春彦（中央）

去る8月9日（日）、村山地区と共催の学術研修会が新庄市「ゆめりあ」で開催されました。両地区担当者の協力により回を重ねること6度目となる今回は『CAD/CAM トライアルセッション』と題して山本貴金属地金株式会社仙台営業所所長の佐藤忠彦氏を講師に迎えました。

昨年12月に中央地区学術の尾形会員と私とが山本貴金属仙台営業所でのCAD/CAM トライアルセッションを受講した際にそのプログラム内容とプレゼンスにたいへん感心し、即座に佐藤所長さんに同じ内容で是非、技工士会で行っていただけないだろうかとの依頼をしてようやく実現する運びとなりました。

打ち合わせの早い段階から新庄市での開催が提案され当地における久しぶりの研修会となりました。当日のプログラムは前半講義、後半デモンストレーションで進められました。



歯科業界の現在はアナログからデジタルへの技術の不連続期にあり産業革命の真只中にあるとされ更に技工士の高齢化、少人数ラボの減少、技工士学校と卒業生の減少、等が提示され将来に不安を抱かせました。またヤマキンはCAD/CAM用の各種ディスク、ブロックを研究開発し供給している立場

から知見が広く、国内外を問わず現在流通している機器の構成、概要が数多く披露されました。後半のデモンストレーションは諸事情によりライブで行うことはできませんでしたが、営業所でパソコンを介してスカイプ、チームビューアで研究所とつなぎ遠隔で操作することができるトライアルセッションのもようをDVDで見るかたちになりましたが一連の操作、手順は理解できた

のではないかと思います。

終わりにヤマキンの理念として、情報の集まる大規模加工センターと関わりが無くデジタル化に遅れた技工士（所）をさまざまな面からサポートして、地方に生き、根ざした地域医療と技術伝統を守るべく支えていきたい、と結びました。



《日技 60 周年地域交流記念大会に参加して》

池田 由美 (庄内)

我々全国から集まった技工士達の熱気の為か、はたまた隣国アジアの観光客の買い物熱気の為か、例年より暑いという福岡での 60 周年記念大会に一般会員の身ながら参加してきました。

市民公開講座の養老先生の「脳から見る生きがいと健康」という演題の為か、少し年齢層の高めの方が多い様でしたが、一般の方々が聞きにいらしていました。

記念式典では、杉岡会長、来賓の方々からこれからの技工士会のあり方など色々聞かせていただきました。 顕彰式では、我県からは青山光邦さんと阿部和夫さんが受賞されるのを日頃お世話になっていた私もとてもうれしく思いました。また、祝賀会ではキムヤンゴン氏 8 アジア太平洋地域歯科技工士連盟議事会会長の発声で乾杯となり、着いたテーブルでは、右隣には岡山の会長、左隣には神奈川の会長がいらして、返す名刺も無いまま頂きつつ、技工の話やそれ以外にも色々話しかけてくださり楽しい時間を過ごせました。

こんな事でもなければ来ることも無いだろうと先生から休みをもらって来た福岡でしたがびっくりぼんな体験を楽しんで来ました。(ま、一応ぬかり無く観光も少しして、大宰府と櫛田神社の御朱印をゲットしてきましたが。)

皆様もたまたま満期になった定期があった時にはえ〜いとばかりに参加してみませんか？



【山形県・上山市合同総合防災訓練】

平成 27 年度の総合防災訓練に歯科医師会の要請で歯科衛生士会と共に参加した。当日は消防・警察の他にも様々な団体が参加し、実際の災害を想定した訓練や体験・展示などが行われた。技工士会は昨年引き続き、刻印義歯についての展示を行った。訓練参加者の上山町内会の方々や小学生などが訪れ、説明に興味深そうに聞き入っていた。

吉村美栄子県知事が訪れた時には、たまたま来県していた日技の時見副会長の説明に熱心に聞き入り、その必要性を感じられていたようであった。



〔市長選後記〕

太田 春彦（中央）

日技連盟の時見理事長が緊急来形。山形市長選挙、自民党の佐藤孝弘候補を応援。

国会が安保関連法案の審議でヒートアップの最中、山形市も熱いたたかいが始まろうとしていた公示日の9月6日、自民党の要請を受けて日技連盟理事長の時見高志氏が山形入りされ県技連盟の齋藤会長、大友理事長、中央地区の太田が随行しました。

街頭での第一声から事務所訪問、個人演説会と帯同して佐藤候補の若々しさに満ちて熱く語る具体的なビジョンに共感を覚え応援の意識が高まりました。全国唯一、三桁の会員を抱える大阪府技の会長を務められている時見さんも太鼓判を押してくれました。

投票は予想通りの激戦となり深夜近くにようやく当確が出て、遠路駆けつけていただいた期待に応える結果に一層喜ばしい事となりました。



《第17回 山形県歯科保健大会》

中川 真奈美（置賜）

去る11月15日、山形県歯科保健大会が山形ビッグウイング2Fで開催されました。

「口から始まる健康長寿やまがた」がメインテーマで、保健・医療・介護の連携強化で健康長寿を目指しましょうという趣旨で行われました。

私はビッグウイングの1Fで山形県歯科保健大会と併催されていた「やまがた健康フェア2015」の「いい歯の日コーナー」に参加させていただきました。歯科技工士ブースでは義歯の刻印による身元判明した事例のポスターと刻印された名前やQRコードの義歯を数床展示しました。また、H26年4月から保健適応になった小臼歯部へのCAD-CAM冠の案内と実物も展示しました。いらっしゃるお客様は「歯は身体全体に影響を及ぼす」「口腔ケアが健康の要だ」とやはり健康に対する意識が高いことが伺い知れました。また、お話をしている中で小臼歯部にFCKが光っているのを確認できたお客様にはCAD-CAM冠の案内をさせていただいたところ、知らなかったので今すぐにも入れ替えたいという前向きな声が多くありました。まだまだこちらから発信していかないといけないんだなぁと痛感しました。

お子様連れも多かったので、スポーツのマウスピース等も今後展示できれば話が広がるのではないかなあと感じました。



表彰

◇厚生労働大臣表彰

青山 光邦 氏(中央)

◇日技会長表彰

阿部 和夫 氏(庄内)

おめでとうございます

☆新入会員☆

10月入会

足立 識之 (置賜)

よろしく申し上げます

地引網とだだちゃ豆収穫体験

四地区合同レクリエーションが8月23日(日)に庄内地区担当で行われました。今回は、久しぶりに地引網が復活して、おいしい魚目当ての44名の参加者がありました。

当日は朝から雨の降っている所もあり心配しましたが、庄内は雲の切れ間から太陽がのぞくまずつの天気、逆に日焼けが気になる位のコンディションになりました。地引網の世話をさせていただく鶴岡市三瀬の旅館仁三郎さんの前で開会式が開かれた後、三瀬海岸に移動して地引網の開始となりました。300m位の長さの網を引くという事で、引いても引いてもなかなか網の先がよってこなくて重い網を30分位がんばって引き、ようやく引き上げました。網の中にはあじやかれい、いなだなどたくさんの魚が入っていて、サメまで入っていたのには皆びっくりしていました。参加した子供たちも大喜びで魚をつかんだり触ったりしていました。

その後、仁三郎で昼食となり庄内の新鮮な魚介類の刺身や煮物、から揚げなどをおいしくいただきながら楽しい時間を過ごしました。

午後からは鶴岡市内の畑に場所を移して、だだちゃ豆の収穫体験を行いました。一番おいしい時期とあって、畑いっぱい実ったたくさんのだだちゃ豆の中

から、各自目移りしながら選んで収穫していました。最後においしいだだちゃ豆の試食をいただいて終了となりました。

たのしい企画を準備して下さった庄内地区の皆さん、大変ありがとうございました。



